

KSKQ

パラマウント通信

障害者力又ー協会 機関紙

すっかり恒例になった奈良県心身障害者スポーツセンターでの障害者力又ー講習会。今年も7月1日に開催されましたが、この講習会にはみんなのアイドルがいます。その名は新川直人（しんかわなおと）君（8歳）。力又ーにはまっている直人君の姿を、お父様より紹介いただきました。

力又ー大好き！

は、という直人の気持ち皆様に伝わったことでしょうか。うちの直人は本当に力又ーが大好きです。

治療をして去年は耳の又ーから遠ざかっておりました。6月24日のパラマウント・チャレンジ・力又ー大阪大会は約2年ぶりというところもあり、本人も出る気満々だったのですが、風邪気味の所へ生憎の雨でしたので、欠席せざるを得ませんでした。本人なりによほど悔しかったのでしよう、そ

力又ーにはまる小学生！直人君！



直人君の笑顔は最高！

れからというものの力又ー教室当日まで口を開けば力又ーのことばかり話していました。

力又ー教室が始まると、はやりの気持ちを抑え（させているのは私たちですが）、体操とパドルの

2007/10/19
秋号
No.49

室でお世話になった数年前は一人でも漕げるようになっていたが、その日を迎えてみればアツという間違ったような気がします。

練習をなんとかこなしました。そして、一人で漕ぎ出した姿の満足瞬間でもありました。

皆様から「大きくなった」と声をかけていただきましたが、実は私自身が我が子の成長に気付いていなかったような気がします。

タイムレースで見た真剣な表情も印象的でした。ただ、本人的にはうまく操れないことに不満があったようです。午前の部が終わってもまだまだ乗っていた。午後の部に余裕があるとお話があり、急遽午後もお世話になることになりました。しかも直人だけでなく、私も乗せていただき親子ともども楽しい時間を過ごすことができました。おかげさまで直人も大満足のお一日となりました。この場をお借りしてスタッフの皆様にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



新川ファミリー！プールサイドの風景です（うらやましー！）

しんかわゆうこ
新川雄彦（直人父）

さて、直人が初めてお世話になった時、幼稚園児で参加しているのは直人だけだったように思います。そのためか皆様に顔を覚えていただき、行く先々で声をかけていただいていたことが本人の励みにもなったようです。当時は遊びの一つとして始めた力又ーでしたが、今となっては小さい頃からやらせて良かったという思いと、そのような機会に恵まれたことへの感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも障害児と力又ーが出会う機会が増えることを願ってやみません。直人のように力又ーにはまる障害児はまだまだたくさんいるに違いありませんから。

静水スラローム競技会

第1回

パラマウント チャレンジ・カップ



祝！初開催！

2007年7月8日(日)、名古屋市障害者スポーツセンター内のプールで、第1回障害者カヌー静水スラローム競技会「パラマウント・チャレンジ・カップ(以下PCC)」が開催されました。イキイキとしたPCCの様子を報告します。

レポート 齊藤典彦(協会理事)

【第1回は名古屋で！】

名古屋市の障害者スポーツセンターは、名古屋市名東区にある。体育館、プール、トレーニングルームなどのスポーツ施設だけでなく、障害者用の料理実習室もあるマルチでアクティブな総合施設です。

【競技は大盛況】

開催当日は参加者18名、スタッフが20名が集まってPCCがスタート。午前中は18名を3チームにわけてカヌーの基本を学ぶ講習会。午後は、個人ごと記録を計測するスラローム競技会を実施しました。

協会としてこの温水プールを1日借りることができ、6月初旬にPCC開催ができれば、スタートやチャリを配ると、月末までに18名の応募がありました。また水泳経験者を中心に問合せも複数あり、改めてかまへの関心の高さが実感できました。

プールでカヌー!

参加者ボランティア募集
開催者カヌー協会 主催

第1回パラマウントチャレンジカップ!
いい夏が送ってきました。水遊びもいよいよあじわいますが、今年はお客としてあませんか? 障害者スポーツセンターのプールを使って、初の講習会やPCCでのPCCタイムレースやスラロームチャレンジカップを開催! 申込みをお待ちしています。

開催日 7月8日(日) 10時~15時

場所 名古屋市障害者スポーツセンター内 プール
名古屋市名東区勢子坊二丁目1501番地

参加費 800円
参加費に含まれるもの: 保険料、カヌーレンタル料、タイムレース参加費用、講習会費(カヌー)

参加対象者 小学生以上(身体、知的障害を有しない。不明な場合は、お問合せください)
20名(先着順)

スケジュール
9:30 集合
10:00~12:00 カヌー講習会(カヌーのついで講習)
13:00~15:00 タイムレース(日本初の実験!)
15:00 解散

服装&持ち物
泳帽は必ず着用(泳帽の上にはTシャツなどの皮膚を保護するものタオル、靴擦れ、その他 水泳帽と同様の持ち物)

申込み方法
お電話での申込み(お電話の上 FAX申し込みも可)

問合せ先
障害者カヌー協会 齊藤典彦
www.nppss.jp

開催告知ポスター

この3日間、PCCの開催です。午前中の講習会が終了したあと、プールとなるブイを設置したところ、口を渡して「ゴール」の文字を掛けてコースが完成。

今回の参加者は、7歳から7歳の、当センターのプールで泳をしながら親しんでいる方が多いため、スムーズに進行することができました。中には、カヌーのこックピットに入るのが怖くなって、そのままタイヤする子どももいました。全体では、初めて乗るカヌーに積極的になりました。

参加者からは次はいつ開催するの? という質問が多くあり、反応も上々でした。

競技後、参加者全員に記録証を手渡し、一人づつにマイクで感想を発表してもらいました。「1分をきりたかった」「今年だ」「感想が多数。こうして第1回PCCは無事に終了しました。」

プールサイドで競技ルールとコースを説明。ゴールラインに記録係、壁面タッチ審判、ブイにスタッチ審判を2名配置して競技スタート。次々と選手がゴールに浮かび、3つのブイを回ってゴールへ向かいます。悪戦苦闘しながらゴールにたどり着き、インを切る選手もいて、最終会場は声援と拍手に包まれました。

認定証

カヌー静水スラローム競技会
パラマウントチャレンジカップ
以下の記録を認定いたします

氏名	カヌ田 カヌ吉
コース	標準コース(80m)
記録	5.5秒 60ポイント
会場	名古屋市障害者スポーツセンター
記録日	2007年 7月 8日
	障害者カヌー協会

記録催認定証を発行しました



PCC開始 プールサイドを埋めるカヌー



講習会では自分なりの練習



ブイがあるだけで難しいレース



頑張ってゴール！ 笑顔でVサイン



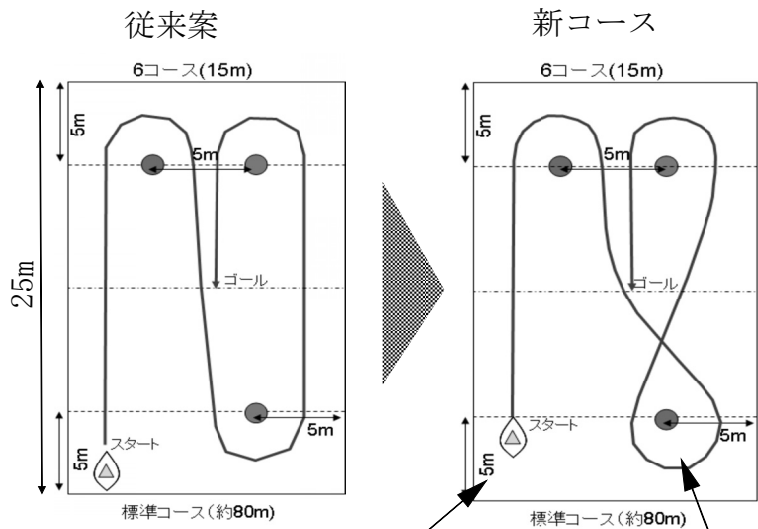
マイクで感想をひとこと「頑張りました！」

【試行錯誤のコース変更】
 第1回PCCを開催するにあたっては、本年2月からプールでのテストを実施してきました。
 7月1日には奈良県心身障害者福祉センター（田原本町）のプールで開催されたカヌー講習会で、PCC同等のブイを浮かべて、参加者やスタッフが記録を計測したり、プールへのカヌーの出入りを含めて、PCC全体の進捗を確認しました。

【これからが本当のスタート】
 今回のPCCで、今後各地でプールを使った障害者カヌーシラローム競技「パラマウントチャレンジカップ」を開催してゆくための基礎ができあがりました。これからが本当の意味でPCC普及活動がスタートしてゆきます。いろんな場所で開催したいと思っております。多くの方から応援を期待いたします。また開催に向けた問合せもお待ちしております。

開催にあたっては、準備段階から協力いただいた、名古屋市障害者スポーツセンター職員のみなさん、また、愛知県内だけでなく、茨城、大阪、奈良、京都、岐阜から駆けつけてくれたスタッフのみなさんに、改めて感謝申し上げます。

コースの変更点



スタート位置を5メートルラインへ
 このブイの回り方を変更 外側から内側へ回ることにより 壁面へのタッチ率を下げる



障害者力ナー協会では、力ナーをする上で必要となるフィッティング方法や補助具の改善を行っています。特に補助具は個人差に対応するのが難しく、試行錯誤を続けています。今回、日本有数の義肢装具メーカーである川村義肢株式会社で補助具の改善をする機会をいただきました。プロの義肢装具士の技術と熱意が、補助具に注ぎ込まれる姿をレポートします。

レポート佐井誠（協会理事）本文中ではマコト

川村義肢

さんへ行ってマコスぺ進化しました

最近、お腹ばかりが進化中？のマコトです。まず僕マコトと、マコスぺについて簡単に説明します。僕は生まれつき左手の首から先がありません。そんな僕が力ナーを出来る道具がマコスぺ（手首から先、パドルを持つ部分の補助具：マコトスペシャルの略）です。（機関紙40号「フィッティングを考える」にマコスぺについて詳しく掲載）

「おーい、川村義肢さんに行くぞ」という吉田義朗会長の一声で決まった川村義肢への訪問。吉田会長が、川村義肢の装具士の方と話す機会があり、その中で僕のマコスぺの話をしたところ、非常に興味を持たれ、一度会っていろいろと試したいとおっしゃられているとのこと。

不真面目な力ヤッカーの僕ですが、障害者力ナーを広めたいと言う気持ちだけは人一倍ありますので、ここはマコスぺだけじゃなくいろいろとフィッティングに使えるヒントを得たい！と、鼻息荒く川村義肢を訪ねました。



僕の左手です

伺ったのは2007年6月30日。訪問メンバーは、吉田会長、マコスぺの産みの親である吉田一平さん、それに僕の3名。川村義肢に着くと「やあ、やあ、よくいらして」と松田靖史（まだやすし）さん（営業開発部 主席技師）が笑顔で出迎えてくださいました。

早速、会社を案内していただいたのですが、川村義肢には本当にいろいろなモノがあります。社員のみなさんは自分の仕事（の手）を止めても丁寧に僕たちの質問に答えてくださいました。関心しきりの僕に「佐井さん、早速、石膏で型をとりますか？」と松田さん。

言われるがままに石膏で型をとられていると、一緒におられた齋藤聡佳（さいとうあきよし）さん（営業開発部 義肢装具士）から、マコスぺに対して2つの改善案をいただきました。



グローブを装着したところ

改善案1：手を怪我しないように

いままでの方法では、手をシリコンでコーティングしていても、じかにパドルがあたってしまったら怪我をする可能性があります。また、マコスぺがはずれないようにいつもテープをグルグル巻きにして漕いでいるので、長時間漕ぐと痛みがありました。

この改善のために、石膏の型で使ったグローブを装着する事を提案いただきました。このグローブを使うと、じかにパドルが手に当たらないうえ、グローブと腕の間に少しだけ余裕があるのでしっかりテープで固定しても血が止まるのを防いでくれます。

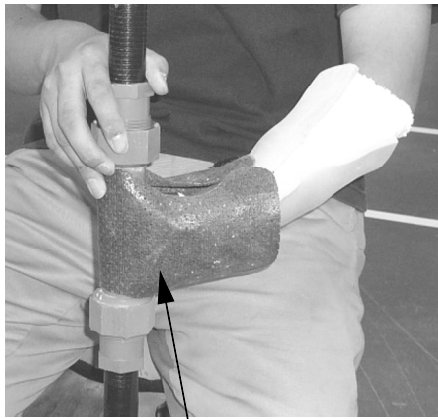
改善案2：本来の手の役割に近づける

現在のマコスぺでは、手がどの角度にも自由自在に曲がるため、いろんな動きが出来て有利だと思っていました。が、これではせっかくの力が「逃げてしまっている」とのこと。

この改善のために、前述のグローブに硬い樹脂製のカバーをつけることを提案いただきました。この樹脂製カバーのおかげで、手首を曲げる角度に適度



型をとっています



硬い樹脂製カバーをパドルと手に装着

な制限が加わり、力が逃げることを防げるようになりました。

【装具士さんのプロ魂】

齋藤さんは、2つの改善点を提案するだけでなく、次々に何かを取り出し、加工しては僕の手直しをする、というものを繰り返されました。他にいい物はなにかと、その人にあつた物を作り上げていく、妥協という文字は全く存在しない職人の技とプロ魂を見ました。

いいものができると、こちらも調子にのって、つい厚かましくなってしまう。「こんな機能が欲しい!」「あれも改善したい!」と言いだしたのですが、松田さんは嫌な顔ひとつせず「他にもこんなはどうですか?」と物だけでなく、装具の考え方や、今後の改善に対するアイデアを出してくださりました。

報告に行きますと約束をして川村義肢をあとししました。

今回の訪問に快く対応いただいたみなさん、本当にありがとうございました。

【早速ためしてみました】

早速、翌日の7月1日にあったプール講習会の間に新マコスペを試して見ました。装着する時、グローブや樹脂製カバーが付けるため、いつもより時間がかかりましたが、いくらか強くなると固定して長時間漕ぎそうでも、実際に漕いでみると、今まで自由に動いていた左手が固定されているので、最初すごく違和感を感じましたが、フオワードストロークの時にこれまで逃げていた力をパドルに伝えることができ、パドルを動かした時の力、沈めたパドルを動かした時の力、又、進む方が今までは全く違いました。確かめると、漕いで進む感覚を確かめました。周りで見えていた人も「綺麗な漕ぎ方が出てきた」と嬉しそうに褒めてくれました。進化させた新マコスペを実感しました。

使っている新しい改善点は、見づかりました。肌色のグロブが一度濡れると沈むので、濡れにくい素材にしてみました。また、水が流れてくる角度を調整できるようにしました。

外れないなど、問題点もほとんど出てきました。これで、また次の改善を考えてゆくことにしました。

今回、川村義肢の松田さん、齋藤さんに出会い、やや行き詰まっていたマコスペの進化の方向にヒントを得ました。今まで、マコスペを使っていましたが、それと一緒に手の動き、使い方、体のバランス等も含めて考えていかなければならないというところも学びました。マコスペは僕も漕ぎたいという思いをい



新しいマコスペで試漕しています



左から齋藤さん、マコト、松田さん、吉田会長 (せっかくの写真がボケてしまいました)

だき進化してきました。次の進化の目標は、どんなに激しい瀬に向かっても外れないことと、沈んだ時にはすぐ外れるようにすることです。このようなチャレンジと安全性の両立を目指して、マコスペをさらに進化させていきたいです。

川村義肢株式会社
(本社：大阪府大東市)
<http://www.kawamura-gishi.co.jp/>

2007年6月23・24日@大阪府立青少年海洋センター
第4回パラマウント・チャレンジ・カヌー大阪大会・全国交流大会

略して

大阪パラに行

ってききました。

パラチャに來ると、毎回新たな出会いがあります。

今回僕は、知的障害のある女性と二人艇で海に出ました。カヌーもまだまだ初心者なのに、初対面の方と二人ということ、内心どきどきしながら漕ぎ出しました。パドルをそんな不安な代りに手でびゅんびゅん漕ぎ、大波が来るとおはしゃぎ、まだまだ物足りないわと言わんばかりの満面の笑みに、時間の経つのも忘れて久々のカヌーを心から楽しみました。

閉会式で、二日間の『がんばったで賞』に選ばれた瞬間の顔が、本当に嬉しそうで、こちらまで嬉しくなりました。

彼女以外にも「今日は調子出えへんけど沈だけはせんように頑張るわー！」と意気込むおばあちゃんや、初カヌーでもやる気満々の在日韓国人のみなさんなど、本当に様々な方が参加されてました。



がんばったで賞で、またまた笑顔

最初はなかなか話せなくても、一緒に時間を過ごすに連れ、徐々に会話も生まれていきました。

運動会の最後の競技、全員入り乱れての水鉄砲合戦がその象徴だったように思います。大阪パラには初参加でしたが、パラマウント・チャレンジ・カヌーにはその地域ごとの特色が色濃く出るので、と感しました。



雨でもやっぱり笑顔です

ちかむねたかゆき

リポーター 近棟貴之さん





風ふわり、波なし、最高



早く乗りたい



いよいよスタート
海洋センターのスタッフから
シーカヤックの説明



そりゃあ笑顔になりますよ

最後にになりましたが、楽しい企画の裏には、この日のために一生懸命苦心された方たちがおられます。実行委員として企画を進めてこられたみなさん、海洋センターのスタッフさん、万が一でも事故が起きないように陰から安全を支えてくださった方々、

波のある海で、また瀬のある川で、見える景色も楽しみ方もそれぞれ違うと思います。参加している方たちの思いも、もしかしたらそれぞれに違うのかもしれない。けれど、たくさんの人たちと出会い、試行錯誤しながらカヌーを楽しむ。大人、子ども、障害などは関係なく、みんな一緒になって、一つのことをする。その先には、どのパラチャでも変わらない、すばらしい良さがあるのだな、と改めて感じました。

本当にありがとうございます。そして参加されたみなさん、また出会えることを心から楽しみにしています。



交流会準備チームの奮闘&
つまみ食い風景！
(準備ありがとうございました)



盛り上がったらぼくの出番です



さあ！交流会の始まりです！



交流会 会場いっぱいの参加者



誰がなんと言おうと
交流会なんですよ



2日目は雨、、、でも風がないので
どんどん外海へGO！

訃報 藤村真司さん、北澤慈英さん

ふじむら しんじ

きたざわ よしえ

たいへん残念なお知らせです。障害者カヌー協会の設立時より、理事として尽力いただいた2人の仲間が、この夏、闘病の甲斐なく相次いで亡くなりました。藤村真司さんと、北澤慈英（よしえ）さんです。

北澤さんは、92年京都パラマウントチャレンジカヌーのボランティアとして参加して以来、一緒に活動しはじめ、95年の協会設立時より事務局や広報担当理事として10年間にわたり活動されました。



藤村さんは、91年に開催された障害者カヌー講習会をきっかけに、カヌーの楽しさをひろめようと、92年にパラマウントチャレンジカヌー京都実行委員会を立ち上げ、95年の協会設立時から理事として、幅広く活動されました。

人望も篤く独特の風貌もあいまって、藤村さんの周りにはいつも人が集まっていました。



障害者カヌー講習会では、常に参加された方への配慮を忘れず、笑顔で接する姿は「よえちゃん」の愛称で慕われていました。いつも相手のことを気遣うよえちゃんの姿は、周りに安心感を与えて、よえちゃんがいる場所は知らぬ間に暖かい雰囲気につつまれていました。

よえちゃん自身もサポートだけでなく人一倍カヌーの練習

に打ち込み、協会が主催している障害者カヌーステップアップ講習会の事務局を10年以上継続して担当してもらいました。

いつもチャレンジ精神にあふれ、ユーコン川300キロを漕ぎ下ったり、大型バイクのハーレーを3輪に改造したトライクで、アメリカ横断6000キロを完走するなど、目標を実現してゆくパワーは、誰にも負けないものがありました。

また、学生時代から音楽活動も続けてこられ、カヌー講習会の会場で藤村さんのギターを聴いた方も多いと思います。自宅でのコンサートには、毎回多くの仲間が集まり、さまざまな人の交流の場になっていました。

この夏、2度目のユーコン川遠征にゆく直前に倒れられ、2007年8月25日に仲間の願いむなしく旅立たれました。まだ50歳になったばかりでした。

広報担当理事としては、機関紙「パラマウント通信」を10年にわたって発行し、全国に届けられた機関紙が、カヌーの普及を後押ししてくれるとともに、新しい仲間を集めることにつながりました。2007年9月7日。まだ45歳という若さでした。

私たち協会メンバーは、藤村さん、北澤さんの残してくれた財産を大切に、これからも障害者カヌーの普及をすすめてゆきたいと考えています。お二人のご冥福を心よりお祈りいたします。

※お二人へのメッセージがございましたら、協会までご連絡ください。

障害者カヌー協会から 会員募集のお知らせ

障害者カヌー協会では、一人でも多くの方に、協会に協力いただきたいと願っています。会員になる資格は特にありません。障害の有無は関係ありません。協会主旨に賛同いただければどなたでもOK。入会にあたっては、協会事務局までご連絡ください。折り返し申込書を送付させていただきますので、入会金(千円)年会費(2千円)合計3千円をお振込みください。

【事務局連絡先】

630-0201 奈良県生駒市小明町493-17
吉田義朗 方 障害者カヌー協会事務局
電話 06-6912-3400
(モンベルブロッサム店 吉田まで)
FAX 0743-73-5850

【会費振込先】 *郵便振替です

加入者名 障害者カヌー協会
口座番号 01020-7-12908

メールアドレス paracha2006@kcn.jp
ホームページ <http://www1.kcn.ne.jp/~paracha>